

鈴木鎮一先生の 指導用語事典



ここでは、かつて鈴木鎮一先生がレッスンで使われた独特な表現や用語を取り上げ、その内容を先生の言葉とともにお伝えします。今回は、鈴木先生が名古屋商業高校（当時は名古屋商業学校）に通われていた学生時代に体験したエピソードをきっかけに、その後の鈴木先生の一生の生きる道として、心に残された言葉「一に人物、二に技量」を紹介します。

⑱ 一に人物、二に技量

生徒 鈴木先生、今日学校で友だちが意地悪をされているのに、見て見ぬ振りをして、「可哀想なことをしてしまいました。」

鈴木先生 本当は助けてあげたかったですね。でも、まきなかつた。

生徒 はい。(ソウナンです)

鈴木先生 先生が高校卒業の時に、こ

んなことがありました。卒業試験でカンニングをしている友人を告げ口した生徒がクラスの仲間たちに責められ殴られたのです。

生徒 いきなり告げ口をしたことにみんなが怒ったのですね。

鈴木先生 そう、カンニングはよくないことだけれど、告げ口は人間と

紹介したエピソードは、「音に心を、音にいのちを 世界の扉を開けた“鈴木鎮一”マンガ物語」(全音楽譜出版社 本会取扱価格 1,890円)でも取り上げられています



して卑怯ひそやかであると。私は殴らなかつたけれど、級長だったので職員室に呼ばれ、事情を説明しました。しかし学校側は、私を含め20名の処分を発表したので、生徒側が反発。全学生のストライキに発展しました。

言えません。今回のことは、あなたたちを導けなかつた私の責任です。卒業試験は再度行ないます」と校長先生は涙ながらに話されたのです。

生徒 大騒ぎですね。

鈴木先生 新聞でも報道されました。1週間後の全校集会で、校長先生がこう話したのです。「我が校のモットーは、一に人物、二に技量です。今の日本に最も必要なのは人です。仕事ができる人ではありません。私の言う人は、常識を持ち、社会や人生に対し、正しい理解と知識を持った人であり、同時に人情があり、徳を持ち合わせている人なのです」

生徒 (ススキセンセイ、ケンテントナツタ、テキゴトダツタンダ)

鈴木先生 音も、その人らしさが現れることを知っていますか。「一に人物、二に技量」は、人生をどう生きるかという問題への解決だけでなく、美しい音を出すためのヒントでもあり、先生は考えています。むしろくしゃみしている時や疲れている時の音は、何となく、そうした音です。でも元気で、明るく、練習を重ねた音は、しっかりとしていますね。さあ、それでは「プー」を弾いてみましょう。

生徒 (イチニ、ジンプツ、ダナ)

鈴木先生 「あなたたちの純粋な意気はよしとしましょう。しかし氣に入らないからと言って、いきなり暴力を振るうことは正しい行為でしょうか。それはあまりにも常識がなく、正しい理解や知識を持った人間とは